

第1回 高校改革フォローアップ委員会関係校協議会（要旨）

期 日：平成26年6月6日（金） 10:25～12:05

参加校：再編整備対象校（総合選択制高校）三重総合、宇佐産業科学、国東、中津東

津久見、日出陽谷・総合、大分東、佐伯鶴岡・佐伯豊南

① 生徒の学習ニーズの的確な把握による選択科目の設定について

【取組事例】

- ・産業会や行政等と連携を深め、地域が求める人材を把握し、設定科目を考慮している。
- ・魅力ある科目を設定するため、学校評議員の意見も取り入れている。

【課 題】

- ・友人と同じ科目を選択する生徒もおり、将来のことをあまり考えていない場合がある。
- ・学び直しに主眼を置いた基礎科目群や、小論文や数学など進学を見据えた進学科目群を設定しているが、生徒は専門科目群に集まる傾向にある。
- ・科目設定が果たして地域のニーズに合うのかは、不安な部分がある。
- ・生徒のニーズに応えるには、人的配置の問題がある。

【今後の取組】

- ・生徒の実態に即した授業が実施できるよう、常に改善を図りたい。

※ 本年度の総合選択科目を見ると、前年度から変更を行った学校も多い。課題への対応ができていられると思われる。今後も生徒の学習ニーズを的確に把握し見直しをお願いしたい。

※ 総合選択制を柱とする再編整備のねらいは全職員に共有化をお願いすると同時に、教育委員会内でも共有する。一方で、加配等は県全体の総枠が決まっているので、各学校とも協力をしてほしい。

② 教職員に対する総合選択制の目的等の周知について

【取組事例】

- ・互見授業を進めている。特に普通科の教員の専門科目への理解を深めるようにしている。
- ・生徒に配布している総合選択科目ガイドブックを赴任してきた教員に渡すことで周知している。

【課 題】

- ・希望する進路に応じ学校側の指導で決めているが、大学進学等そうせざるを得ない実態もある。
- ・所属する科の内容はよく理解しているが、他の科についての意識が低い。

※教職員は人事で入れ替わりがある。目的を常に共有することは大切なことである。

また、地域の保護者等にも目的が分かるようにするにはどうすれば良いかを検討してほしい。

③ 各学科の状況や実績の積極的な情報提供について

【取組事例】

- ・メディア科学科では、生徒が中学校でiPadによるプレゼン授業を行っている。
- ・いつでも学校を開放しており、普段の生徒の姿を見てもらうようにしている。
- ・「花を育てる会」への出前授業や、JR駅へのフラワーポット設置活動等を実践している。
- ・一市一校のメリットを最大限活用している。市報は毎月1ページ分をもらっている。

【課 題】

- ・中高連絡会やPTAで説明をしているが、十分ではないと認識している。
- ・中学生、保護者、地域の方々などにそれぞれ上手く伝わるような情報発信の方法を工夫することも大切である。

【意 見】

- ・総合選択制によって、専門性が更に向上している。スペシャリストになるには、他の分野のことも知らなければならない。

※ 総合選択制のメリットを学校内の全ての教職員で共有し、地域に情報発信を行ってほしい。

県下の総合選択制に関わる教職員が力を合わせる事が大切である。